

百日咳の報告数が増加しています

茨城県感染症情報センター 令和7年3月31日時点

百日咳とは？

百日咳は、百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) によって引き起こされる急性呼吸器感染症で、**5類感染症の全数把握対象疾患**です。

百日咳の臨床的特徴を有する者を診察した場合は、原則全例検査診断を実施（検査確定例と接触歴のある百日咳の臨床的特徴を有する症例は除く）し、届出基準を満たす場合は診断から7日以内に最寄りの保健所へ届出をお願いします。

【参考】

感染症法に基づく医師及び獣医師の届出について（厚生労働省）

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-23.html>

感染症法に基づく医師届出ガイドライン 第三版（国立感染症研究所）

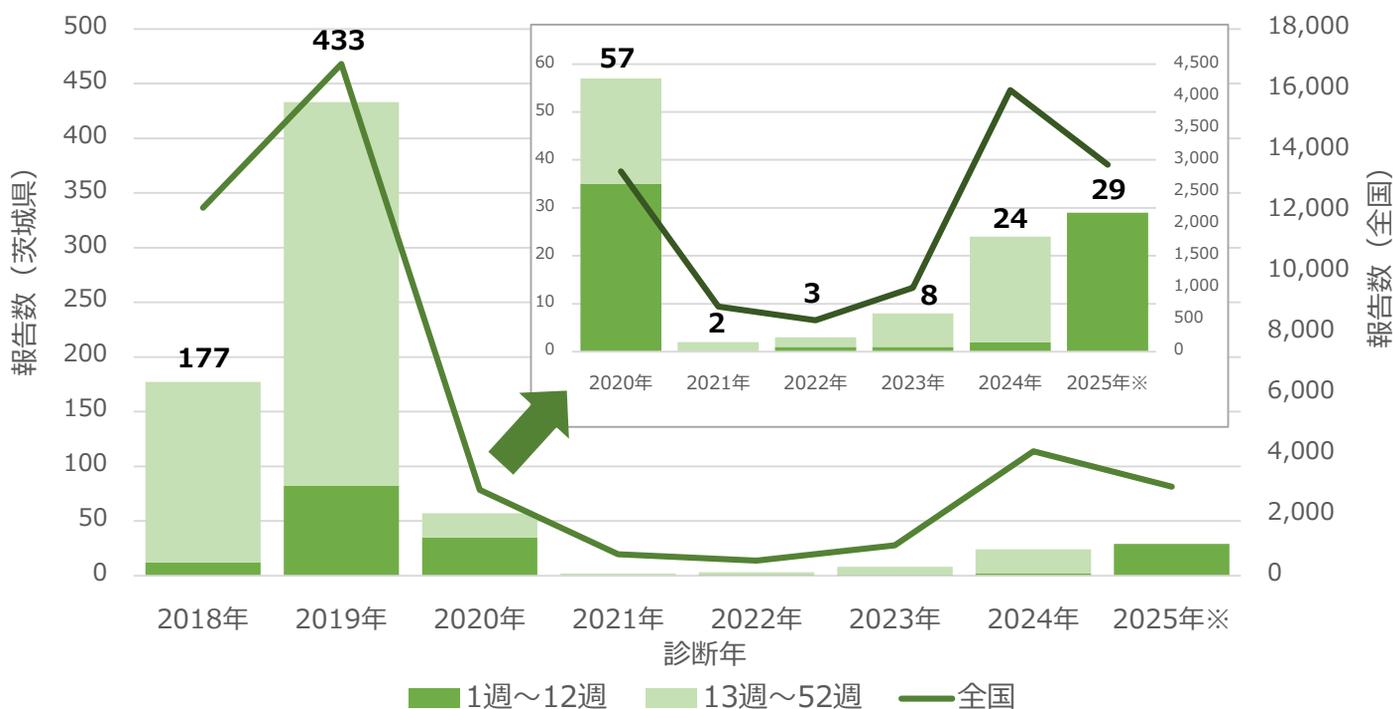
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/610-idsc/13224-pertussis-guideline-211229.html>

百日咳の発生状況は？

- 百日咳は2018年から全数把握対象となり、2019年の433例をピークとし、2020年の新型コロナウイルス感染症流行開始以降、報告数が激減しています
- その後、2022年に報告数が増加に転じ、**2025年第12週時点の報告数は29例とすでに2024年の年間報告数をこえた発生**となっています

→ 2025年第12週時点での報告数は昨年同時期（2例）の約15倍

茨城県及び全国の百日咳報告数（2018年～2025年※第12週時点）

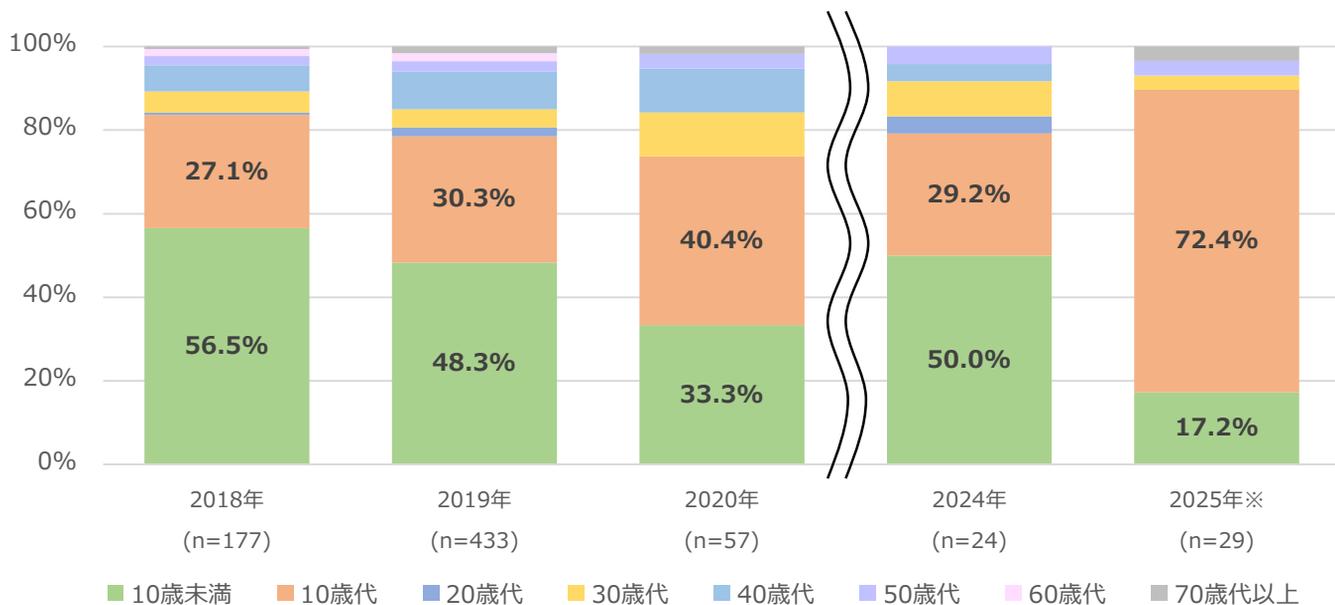


茨城県内で報告のあった百日咳症例の特徴は？

- 百日咳の報告状況に性差はなく、いずれの年も**10歳代以下が全体の約80%**を占めています
- 2025年第12週までに報告のあった症例の年代は、**10歳代が全体の72%と全数把握開始となった2018年以降最も高い割合**となっています
- 重症化リスクが高いとされる6か月未満児の報告割合は、例年2～9%で推移しており、2018年の全数把握開始以降、死亡例が1例確認されています
- ワクチン接種歴別（接種歴不明を除く）では、いずれの年も**4回接種の割合が最も高く**、2025年第12週までに報告のあった症例の96%は4回接種済、4%は3回接種済でした

年代別 百日咳報告割合（2018年～2020年、2024年～2025年第12週時点※）

（報告数が年間10例未満であった2021年～2023年は除く）



マクロライド耐性百日咳菌とは？

- 百日咳の治療には、マクロライド系抗菌薬を第一選択薬として用いることが推奨されていますが、近年、**マクロライド耐性百日咳菌(macrolide-resistant *Bordetella pertussis* : MRBP)**の出現が問題視されています
- 2018年には、大阪府から国内初となる報告があり、その後東京都や神戸市から単発例の報告、2024年には鳥取県からMRBP流行の報告がありました
(国立感染症研究所 病原微生物検出情報IASR <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>)
- **2024年以降、茨城県内においてもマクロライド耐性百日咳菌 (MRBP) 感染症例 (2024年：1例、2025年：1例) が確認**されています

